

Title	訃報；昭和五七年度(十月三〇日)三田史学会大会プログラム；昭和五七年度修士論文題目； 昭和五七年度卒業論文題目
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1983
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.53, No.1 (1983. 5) ,p.96- 101
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19830500-0096

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

彙 報

訃 報

本会前会長松本芳夫氏には、昭和五七年十二月八日に逝去されました。御冥福をお祈りする次第です。尚、葬儀に際し本会より次の弔辞を御霊前に捧げました。

弔辞

松本芳夫先生、長年にわたり御指導いただき誠に有難うございました。

先生は、大正八年慶応義塾大学部文学科を御卒業後ただちに母校に奉職されてより五十余年にわたり教壇に立たれ、戦後は通信教育部長、塾史編纂所委員、文学部長、研究所斯道文庫長などの義塾の要職や三田史学会々長を歴任されました。

日本古代史研究者としての先生の大学の卒業論文は、三田史学叢書の第一冊『神代史研究』として大正九年刊行され、当時学界に支配的であった津田左右吉氏の学説を鋭く批判し、学界に三田史学の声価を高めました。

昭和二年義塾留学生として英・独・仏に留学、帰朝後は文学部史学科国史専攻の中心教授として、定年後は名誉教授として研究教育に活躍されました。

昭和二十五年「古代日本人の政治思想」なる論文により、文学博士の学位を得られ、三十四年右論文に、多年にわたる成果の幾

つかをあつめられ『古代日本人の思想』を刊行され、学界に大きく貢献されました。

また郷里紀州を愛された先生は、『熊野民謡集』、『熊野民俗記』などの著書や郷土史関係の論文も多く発表されて居ります。

謹厳寡黙な先生は学生達からは畏敬されて居りましたが、自ら絵筆をとられた事もあり、御自宅には四季の花木を集められるなど、诗情豊かな心やさしい人格者であり、その高邁な識見を以て御指導いただいた先生を失ったことは、誠に大きな悲しみであります。先生の教を受けた我々としては、心より先生の御冥福を御祈り申し上げますとともに、永くその御教へを心に懐いて、門弟後輩共に力を合はせ努力することを御誓してここに弔辞といたします。

松本先生誠に有難うございました。

一九八二年十二月十日

慶応義塾大学三田史学会会長

河北 展生

昭和五七年度(十月三〇日)三田史学会大会プログラム

研究発表

国史部門 10:00—14:00 西校舎五一二番教室

1 「口状」から「口上」へ—前近代日本の文書と Oral Communication—

慶応義塾大学(大学院修士課程) 西岡 芳文氏

2 鶴岡八幡宮の成立

慶應義塾大学(大学院修士課程) 吉田 通子氏
3 宮人の動向についての一考察
慶應義塾大学(大学院修士課程) 保坂 佳男氏

4 近世後期東総における魚肥流通について
慶應義塾大学大学院修士課程修了 井奥 成彦氏

5 一七六〇年代(宝暦末—明和初年)の幕政の動向について
——田沼意次の評価をめぐって——
慶應義塾志木高等学校 山田 忠雄氏

6 法興寺と法隆寺
慶應義塾中等部 小川 伸之氏

東洋史部門 11:00—14:00 西校舎五一五番教室

1 石油国有化期のトウデア党—トウデア将校組織の活動について—
慶應義塾大学(大学院修士課程) 宮田 律氏
2 二〇世紀前後の中国人とキリスト教社会—Parish Register
より観る一考察—
慶應義塾大学(大学院修士課程) 菅原 健氏

3 中国古代の支配者の友幸について
慶應義塾大学(大学院修士課程) 桐本 東太氏

4 ベトナム阮朝の通事について
慶應義塾大学言語文化研究所 和田 正彦氏

西洋史部門 10:30—14:00 西校舎五一六番教室

1 テルトウリアーヌスの『アポロゲティクム』(apologeticum)
について 慶應義塾大学(大学院修士課程) 増村 譲治氏
2 中世の民衆宗教運動の典型としてのペトルスワルデス

慶應義塾大学(大学院修士課程) 神崎 忠昭氏
3 一六世紀異端審問の展開—モリスコ問題と一六世紀のスペイン異端審問—
慶應義塾大学(大学院博士課程) 宮前 安子氏

4 前五世紀におけるトリエラルキアと部族原理
広島大学(大学院博士課程・後期) 宮地 啓介氏

5 エリザベス治世期の治安判事
慶應義塾大学文学部 清水 祐司氏

民族学・考古学部門 10:00—14:00 西校舎五一三番教室

1 トカラ列島悪石島の生業
慶應義塾大学(大学院修士課程) 川崎 史人氏

2 韓国慶尚南道上老大島貝塚出土の剝片石器
慶應義塾大学(大学院修士課程) 広瀬 雄一氏

3 東シナ海をめぐる日中韓古代文化の交流
慶應義塾大学文学部 江坂 輝弥氏

4 民族学研究と地域
慶應義塾大学文学部 中村 孚美氏

公開講演 14:30—16:00 西校舎五一七番教室

桓武朝の歴史的意義

国学院大学文学部教授 林 陸朗氏

三田史学会総会 公開講演終了後

会場 西校舎五一七番教室

懇親会 17:00—18:30

会場 三田山上「山食」(学生食堂)

昭和五七年度修士論文題目

〔国史学専攻〕

童如 雯 日唐戸令応分条に関する一考察

——姉妹得分規定をめぐって——

漆原 徹 軍忠状に関する若干の考察

吉田 通子 鎌倉時代鶴岡八幡宮の成立と展開

〔東洋史学専攻〕

桐本 東太 中国古代における支配者の巡幸について

宮田 律 民族運動期のトウデ党——トウデ将校組織について

〔西洋史学専攻〕

鈴木 克夫 ジュール・ミシュレにおける歴史観の形成

高橋 裕一 近世初頭イングランドの地主層——ヨークシャ、エ
グリンガムのコンスタブル家の場合——

稲田 浩 初期ビザンツにおけるコンスタンティノーブルの民
衆について

増村 謙治 テルトウリアーヌスの『アポロゲティクス』に対
する一考察

神崎 忠昭 ヴァルデスに関する一考察——中世民衆宗教運動の
一典型として——

〔民族学考古学専攻〕

川崎 史人 悪石島における生業形態の変化

昭和五七年度卒業論文題目

〔国史学専攻〕

佐々木光司 文部氏・文部に関する一考察

程塚 幸子 律令制下の妾女制について

佐志いずみ 当麻寺

永原 千枝 鑑真和上

平井 益美 紫微中台について

山田 順子 称徳天皇とその周辺の人々

大野登代子 藏人所について

荒尾 正治 四・五世紀における倭

出雲 雅彦 大化改新直前の蘇我諸家の関係

渋谷 直之 大化の改新——部民制の検討——

真浦 冬樹 飛鳥浄御原律令について

——律令継受の一段階として——

伏屋 千絵 忍壁皇子に関する一考察

斉藤 文明 上毛野氏について

原 純子 光明皇后と皇后宮職について

弘田 隆彦 『将門記』と将門の乱について

柴橋 泰弘 石山戦争の原因について

伊藤 貴彦 日本中世の卑賤観と差別意識について

松山 直樹 日本中世前期荘園体制の生産様式論的考察

市原 紀子 能楽における盲目についての一考察

柴田 真冬 武士の勃興について

青柳 幸子 北条執権政治の成立過程について

小林 一 中世の境界——中心と周縁

羽田 寿文 南北朝における惣結合

吉川 和子 鎌倉幕府法の効力について

柴田かずね 平氏政権の古代的特質

力 はるみ 中世前期の族的統合——置文を中心として

西沢 滋 寿永二年十月宣言について

山本 嘉文 狂言にみえる不具の問題

太田 富康 兵庫地域経済圏の諸問題

——入船納帳を中心として——

木村 達哉 日本イエズス会の用語問題について

関谷 直子 久坂玄瑞の尊王攘夷運動に対する一考察

新村三貴子 近世松前藩における経済機構

——問屋制を中心として——

関根久美子 本多利明の経済思想について

——蝦夷地開発論を中心として——

加茂 正義 鳥羽・伏見戦後から西郷勝会談に至る政治過程

宮崎比呂志 幕末期に於ける外交権に関する一考察

——兵庫開港を中心として——

尾形光琳——その生涯と作品を貫く貴族性について

加藤 光彦 幕末の横浜開港による江戸市中への影響について

鮫島 光 坂本龍馬の政権構想

細川 義 「船中八策」「新官制案」を中心として——

將軍後見職徳川慶喜について

——参予会議を中心として——

徳野 隆 阿波藩藍玉専売制度の展開過程

——近世藩専売の一例として——

妙立 澄子 女子青年集団から見た体制維持の意識と条件

——大正デモクラシーから日本ファシズムへの移行

期を支え続けたもの——

伊藤 素子 日英内盟成立状況の一考察

吉岡 悟志 日本の軍備及び日米安全保障条約に対する評価の変遷とその背景

竹沢えり子 母性保護論争をのりこえる

江原美智子 修身教科書を通して見た家族国家観

森作 俊久 明治初年に於ける維新政府の宗教政策について

——神道国教化政策を中心として——

橋本 寿史 ファシズム期における大衆運動

——その担い手を探りながら——

岡部 良子 家族国家観の形成

〔東洋史学専攻〕

塩次 浩喜 管子法家的なところに関する考察

高輪 義史 中国西南少数民族納西族の名称と族源

田口 勉 清代蘇州における端布業について

仲田 恭子 方相氏に関する三つの小論

- 石井みゆき 旧海峽植民地における華人婚姻形態の変化
- 板橋 由美 ゼキヴェリデイトガンとその学問形成
- 杉浦 茂樹 イラン乾燥地農業社会の特質
- 高柳 繁範 明治期の中央アジアにおける日本人の活動
- 小島 史明 アリーシャリーアティーまたはイラン革命の魂
- 近藤 真宣 第二次反乱時のハローリジュ派分裂
- 山中 啓介 PLO組織論

〔西洋史学専攻〕

- 藤井 真也 アメリカにおける社会ダーヴィニズムの歴史的展開
- 真壁 宏幹 デイルタイにおける理解の問題
- 白戸 紀子 ロマン主義の底流におけるJ・J・ルソー
- 大沢 悦子 カーライルのヴィクトリア朝社会批判
——*Past and Present*を中心として——
- 熊倉 恭子 中産階級のジェントルマン化とパブリックスクールの改革
- 辺見 嘉満 フィリップペ二世の外交政策
- 加藤 裕 大衆娯楽の誕生——第一次世界大戦と映画——
- 坂本 仁 鉄道建設と産業、特に農業——十九世紀イングラランドの場合——
- 土屋 圭 三十年戦争をめぐる外交関係
- 高島 規政 戦争史の方法論的考察
- 筒井 健二 十八世紀ロンドンのコーヒー・ハウス
——「庶民」と政治——

- 天春 久美 ローザ・ルクセンブルクの「ポーランド論」における民族理論についての考察
- 宇都宮美恵 ナチス時代の証人としてのエーリヒ・ケストナー
- 堀 淳子 トーマス・マンの転向について
- 大桃 敏子 ワイマール期における東プロシヤ援助問題
- 喜安 智子 十九世紀ポーランドにおける農民解放問題
- 木村 功 グスタフ・シュトレゼマンの対西欧外交
- 中出 弘子 ナチス・ドイツの教育政策
- 南条ゆかり ナチズムの思想史的起源についての考察
- 佐々木 豊 一九二〇年代の民主党の再編とアメリカ社会
- 鈴木 竜司 Raoul Wallenberg の人と業績について
- 矢田部拓彦 第二次大戦参戦に至るアメリカの対日政策決定過程
- 分部 庸子 ルネサンス美術の宗教性に関する一考察
- 錦織 浩子 騎士道の精神史的一考察
- 野沢 真美 ファンタジー文学の史的考察
- 河村 晴子 ルネサンス期イタリアの経済的背景について
- 小山 典彦 オペラ成立の社会的背景について
- 遠藤いく代 ポンパドゥール侯爵夫人とその世紀
- 大隅 知子 フランス・ブルボン復古王政
- 加藤 幸子 マリア・テレジア
- 川崎 健 マサチューセッツ植民地における「聖書国家」の成立と崩壊
- 菅 ひろみ アメリカ革命とは何か?
- 小林 秀子 パデレフスキ——第一次世界大戦におけるポーランド

ド独立運動——

坂田 和男 フィレンツェと芸術家達

佐々木優子 バブーフの陰謀

長楽 祐子 国際赤十字史

中村 悦子 メッテルニヒとその時代背景

服部 智子 “The Image of the American Woman based on Daisy Miller”

羽馬 孝 フリードリヒ大王の農業政策

半田 圭子 ロベスピエールと恐怖政治

山本 佳伸 ドイツ三月革命とその挫折について

渡辺誠一郎 ルイ十四世治下における絶対王政の解明

佐藤 考裕 古典期マヤ崩壊について

長谷川淳一 ローマ帝国の食生活について

山下 敬博 聖パウロの思想と生涯

〔民族学考古学専攻〕

出居 博 旧石器時代に於ける石器集中の様相

小林 謙一 中部・関東地方における勝坂・阿王台式土器成立期の問題

桜井 準也 石器組成よりみた縄文時代の地域について

林 健二 縄文時代の埋葬研究史

二村喜恵子 縄文時代後・晩期の土製耳飾について

伴 浩生 縄文時代の植物食研究史

田淵久仁子 花粉分析の考古学における応用について

村中 聡子 プエブロインディアンの先史社会組織に関する一つのケーススタディについて

山川 美穂 南インド・スリランカの服飾文化

今井 勝 旧日本委任統治領南洋群島における島民教育

蓮見 直 ポリネシアの民族音楽についての一考察

絵野沢俊弘 アナトリアのアッシリア植民市について

大久保昭佳 東北地方北部の環状列石（配石遺構）について

——土塔を中心として——

武田 冬門 関東地方における象形埴輪の出土位置とその編年的

考察